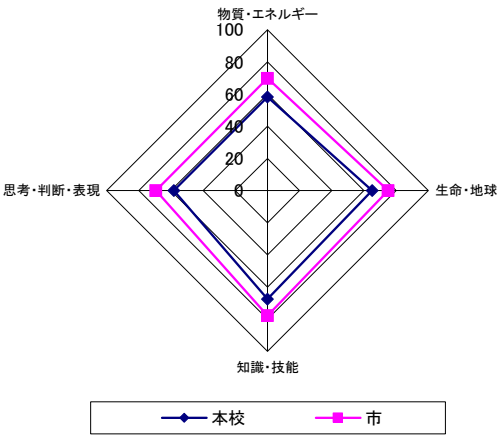


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.2	69.9	67.8
	生命・地球	65.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	67.4	77.8	78.4
	思考・判断・表現	58.2	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は58.2%で、市平均よりも11.7ポイント低い。 ○「ふりこのきまり」の単元では、「ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測する」問題で平均正答率が市平均を0.3ポイント上回った。 ○「物のとけ方」の単元では、「食塩とミョウバンの水のとけ方の違い」の問題の平均正答率は77.4%で、市平均を5.2ポイント上回った。 ●「水よう液の性質」の単元では、リトマス試験紙の様子から水溶液の液性を理解する問題で市平均を大きく下回った。	・実験や観察などの体験活動を重視し、特に比較実験時の条件設定においては、実験を行う意味や目的をしっかりと理解させたうえで、条件設定の方法をグループ内の話し合いで決定していくような場面を意図的に取り入れていく。 ・実験・観察後には、結果から明らかになる規則性や現象を、学級全体で確認し合うことで、知識・理解の深長を図る。
生命・地球	平均正答率は65.1%で、市平均よりも10ポイント低い。 ○「生物とかんきょう」の単元では、市平均には届かなかったが、食物連鎖に関する問題の平均正答率は82.3%と8割に到達している。 ●「植物の発芽と成長」の単元では、「対照実験の条件について、誤りを指摘できる」の問題で、市平均を大きく下回った。	・身近な生き物や自然現象と関連させながら観察・実験をさせることで、子供たちの経験値からひらめく気づきを大切にしていける。その気づきを確かめさせるための実験・観察教材の充実に力を注いでいく。